



創生活会

おおさき  
大崎

のぶじ  
延次

## ヘルプカードの導入について

**問** 障害などがあり、支援を必要とする方が、その内容を伝える「ヘルプカード」の導入を尾道市として検討してはいかがでしょうかですか。

**答** ご本人・家族等にとつての安心、情報コミュニケーションの支援、障害等に対する理解の促進などのメリットがあることは認識しています。本市としては、広島県・県内各市町の動向を注視しながら検討してまいります。

## 観光施策について

**問** 尾道駅の西にある「港湾駐車場」を三階・四階に高層化するということについての見解は。

**答** 休日には、駐車場を利用する車両での交通渋滞が発生している状況であり、尾道駅前から西御所地区にかけての駐車場不足の解消は喫緊の課題であると認識しています。今後、港湾駐車場の増設につきましては、港湾管理者である広島県や駐車場を管理する尾道ウォーターフロント開発㈱と協議を進め、

賑わいのある来訪者にやさしいまちづくりを努めます。

## 自主防災組織について

**問** 自主防災組織への運営費補助についての見解をお尋ねします。

**答** 平成25年度から防災資機材購入経費に対する補助を行っているほか、今年度からは防災訓練や防災学習会の開催経費の補助を新たに開始し、現在38団体が利用されています。その他の運営経費に対する補助については、今後、各団体からの意見等を聞きながら検討してまいります。

## 市役所本庁舎について

**問** 建設予定の本庁舎二階の「多目的スペース」に栗原地区にある尾道公共職業安定所に移転入居してもらってはどうかですか。

**答** 多目的スペースは、期日前投票や税の申告相談など、臨時的に多数の方が利用される市の使用においても不可欠な場所として計画しています。ハローワークが実施される業務の中で、就職面接会や相談会などの会場として使っていたりすることは可能だと考えています。



誠友会

かきもと  
柿本

かずひこ  
和彦

## 高齢者の安心安全な自動車運転について

**問** 高齢ドライバーによる事故防止対策、また、運転免許証の自主返納によるサービスについて、どのように考えていますか。

**答** 加齢に伴う身体能力や認知機能の低下により、全国で重大な交通事故が多発していることを高齢者の方やご家族の方に認識していただき、ご自身に置き換えて考えていただくなど、一層の交通安全意識の啓発を図ることが大切だと考えています。自主返納を促す効果的な方策については、現在、民間事業者によるタクシーや路線バスの料金割引が行われていますが、警察や交通安全協会と連携し研究してまいります。

## 体験型観光整備について

**問** 交流人口増加に向けた体験型観光を推進するために、どのようなメニューを考え、取り組んでいきますか。

**答** レンタサイクルを利用した「しまなみ海道」の周遊体

験や日本遺産に認定された街並みでの七佛めぐり体験などに加え、今年度、「都市・農村漁村体験交流事業」に取り組んでおり、本市固有の「食」と「食文化」を地域資源と位置付け、産地ならではの新鮮な食材を調理し、伝統料理を楽しむ体験メニューの造成を進めています。今後、観光客の動向調査や地域でのワークショップ、モニターツアー等を実施し、その効果を検証し、課題の分析を行います。

## 武道館の整備について

**問** 青少年の心身を鍛えることにもつながる武道について、また、武道場の整備をどのように考えていますか。

**答** 武道は、伝統や文化を理解するとともに、自らを律し、相手を尊重する態度を養うなど、青少年の健全育成に有意義であると考えています。

武道場は、広島県内で12市町が施設整備をされていますが、本市においては、柔道、剣道、空手などの練習に、小中高の学校施設やびんご運動公園アリーナなどを活用していただいています。専用施設の整備も課題と考えていますので、引き続き検討してまいります。



新和会  
ほしの  
星野 光男  
みつお

## 土砂災害警戒区域・特別警戒区域について

**問** 土砂災害特別警戒区域での建築物の増改築や勧告に基づく家屋の移転等に対する補助制度はありますか。

**答** 特別警戒区域に指定された日以前に建っている建築物に対しては外壁改修補強、擁壁設置などの工事に対して補助を行っています。〔補助対象工事費上限330万円、補助率は対象工事費の23%〕

移転については、対象区域にある建物の除去費の一部と移転先の住宅購入の借入金の子の一部に対する補助金の交付があります。〔除去費に対する上限金額80万2千円〕

## 災害ボランティアの募集について

**問** 尾道市では今後も土砂災害の発生は避けられそうにありません。土砂災害復旧のためのボランティアの募集についての見解はいかがですか。

尾道市では今後も土砂災害の発生は避けられそうにありません。土砂災害復旧のためのボランティアの募集についての見解は

**答**

被災地におけるボランティア活動が果たす役割は大変大きくなっており、本市においても大災害時には被災状況とニーズを把握し、災害規模と二次災害の危険性を考慮しながらボランティアの活用を図らなければならないと考えています。尾道市社会福祉協議会を主体とした市も参加している「尾道市被災者生活サポートボランティア推進会議」により運営マニュアルを作成しております。

今後も関係機関と連携しながら、円滑に被災者支援ができる体制の構築に努めてまいります。

## 障害に対する理解について

**問**

小学校1年から中学校3年までの9年間で、障害に対する理解の学びを学年に応じて体系的に構築してはどうですか。

**答**

発達段階に応じて、道徳、特別活動、総合的な学習の時間で障害の理解や障害者への対応について学習しています。実生活で生かすことができる力を養うことを目指しています。これらの学習が体系的に構築され、障害のある人への適切な対応の仕方が身についていくような指導をすることは重要であるととらえています。



市民連合  
しろま  
城間 和行  
かずゆき

## 尾道の「子育て・教育」改革について

**問** 過去5年間の人口社会減（転出超過）の数値はどうなっていますか。また、社会増（転入超過）に転化する可能性とその目標年度はありますか。

**答** 平成23年203人・24年499人・25年630人・26年516人・27年370人です。昨年度策定した人口ビジョンにおいては、2060年までの間、社会減は年間約100人から160人で推移し、この間に社会増に転じることは困難ではないかと予測しています。

**問** 相生市が実施している市立幼稚園無料化（私立・認定こども園は月8000円補助）と幼小中給食無料化を想定した場合の対象者数・予算額の推計はいくらですか。

**答** 対象園児数3100人、予算額2億5700万円です。幼小中給食対象者1万331人、予算額5億900万円です。

**問** 尾道市教育委員会は右記2事業実施の研究をしていますか。

**答** 尾道市教育委員会は右記2事業実施の研究をしていますか。

**問**

現在、具体的な施策の検討は行っておりません。どのような施策が真に望まれているのか、また、効果的なのかを十分に見極める必要があることから、慎重に研究してまいりたいと考えております。

**答**

現在、具体的な施策の検討は行っておりません。どのような施策が真に望まれているのか、また、効果的なのかを十分に見極める必要があることから、慎重に研究してまいりたいと考えております。

**問**

教育委員会主催による学習支援事業を行う考えはありますか。

**答** 様々な理由で家庭での勉強が難しい子どもに対する支援の在り方について、関係課と連携し検討しております。

**問**

「外国人にやさしいまち」尾道について

**答** 「やさしい日本語」による情報発信に対し、基本的な考えはいかがですか。

**問** 母国語を問わず、誰にでもわかりやすい「やさしい日本語」は災害時だけでなく日常生活においても大変有益な情報伝達の手段であると認識しており、さまざまな場面で「やさしい日本語」による情報発信ができるよう、研究してまいります。

**答** 人種差別撤廃条例制定の考えはあります。今後、国の法整備など動向を注視し、新たな条例の必要性について研究してまいります。



尾道未来クラブ

前田 孝人  
まえだ たかと

## 100億もかかる市役所は いらない

**問**

公会堂を残して欲しいと切実な願いの市民運動。様々な取り組みも報われることなく、50年にわたり市民に愛された公会堂は、10月末に解体され跡形もなく消えてしまいました。その跡地に立った時、悔しさとともに改めて解体を進めた平谷市長とこれを認めた議会に対し憤りを覚えたのは私だけではないと思います。庁舎建設計画は進んでいますが、地質調査の震度6強の地震で「深さ16m位まで液状化する恐れがある」とされた事を忘れてはなりません。市長は新庁舎を防災拠点と位置付けて新築するとしています。が、液状化で家屋倒壊や道路の寸断、津波や高潮、またライフラインがストップし、頑丈な杭を打った豪華客船に似た新庁舎だけが空しく立ちすくみ、市民が近寄れないありさまが想定されます。液状化が懸念される公会堂跡地に、防災拠点としての新庁舎建設は無謀であり抜本的に計画を見直すべきではありませんか。

**答**

新庁舎は地質や想定される地震の検証を経て、適切な工法を採用しており、また国交省の機関による性能評価等を受けることになっていきます。こうしたことで安全性が十分担保され、安全・安心の拠点としての機能を果たせることから計画を進めてまいりたいと考えます。

**問**

市役所は商業ビルや観光施設のように経済的な果実を生む所ではありません。斜めに立った新庁舎。300人収容の多目的スペース。デッキ等の開放エリア。これらが本当に必要なですか。人口減少社会にあつては最低限の機能だけを持ったスモールでコンパクトな庁舎であるべきです。新築ではなく日本遺産の街尾道にしつかり溶け込んでいる、昭和モダニズムの傑作である現庁舎を、液状化対策を行い耐震改修し活用すべきではありませんか。

**答**

耐震改修をした場合は、大幅な面積減少と耐震壁の設置による執務室の分断等により庁舎機能維持することは困難となります。新本庁舎は合理的な市政運営ができ、人々の交流や賑わいを創出する、尾道のランドマークとして機能するように設計を進めており、できるだけ費用を抑えながら魅力的な庁舎を目指してまいります。



公明党

福原 謙二  
ふくはら けんじ

## 証明書のコンビニ交付サービスについて

**問**

生活習慣の多様化や単身世帯、共働きの方の増加などにより証明書のコンビニ交付サービスを開始するべきと思いますが尾道市は開始年度時期の計画は立てていましか。

**答**

コンビニ交付に必要となるマイナンバーカードを市民の7%しかお持ちでない状況です。開始時期は、市民ニーズ、費用対効果、優先度等総合的に判断していきます。

## 不妊治療について

**問**

尾道市は市独自の一般不妊治療助成制度を開始しました。広島県が不妊治療助成制度を拡大したように本市も拡大し、特定不妊治療への助成に取り組むべきではないですか。

**答**

特定不妊治療は、妊娠を望むご夫婦にとつては、より効果的な治療と認識しています。一般不妊治療の助成を開始したところなので、不妊治療助成制度の成果を確

認しながら検討してまいります。

## 若者定住促進施策について

**問**

若者の定住促進施策として40歳未満の婚姻している市内の若者や市外から転入してくる人が、住宅を新築したときには市独自の固定資産税減税制度、または住宅取得奨励金制度の創設など市独自の若者応援が必要です。若者世帯の新築住宅への固定資産税減税制度などを実施してはいかがでしょうか。

**答**

県内においても一部の市町に定住促進のため制度が開始され一定の利用があると伺っています。導入については税の公平性、本来期待する効果を発揮できるかを見極めながら研究していきます。

## 避難所へのWi-Fiについて

**問**

災害時の指定避難所では迅速な情報が必要で、避難した方々は情報がなければ不安が増すばかりであります。本市は指定避難所等にWi-Fiの接続環境がありますか。

**答**

現時点ではWi-Fiを使用できる避難所はありませんが、大災害時には携帯電話3事業者が臨時のスポットを設置する支援が行われています。

